

令和8年5月8日

2025年度授業アンケートの評価について

1学期では調査対象39科目中30科目(76.9%)、2学期では40科目中34科目(85%)から回答が得られた。回答率は、1学期が28.6%、2学期が28.2%であり、いずれも例年並みの水準ではあったが、分析精度向上のため、今後も回答率向上に向けた取り組みを継続していく必要がある。

2025年度のアンケート結果では、シラバスに関連する設問1~3すべてにおいて、「強く思う」、「そう思う」との回答が9割前後に達しており、各教員がシラバスに基づいた講義を着実に実施し、授業内容やレベルについて適切な水準を維持しているものと評価できる。また、設問5~10における教員の説明、話し方、学生との双方向コミュニケーションなどに関する設問においても、8~9割の学生から肯定的な回答(「強く思う」、「そう思う」)が得られている。

なかでも、設問14~19における「授業による知的刺激・さらなる学習意欲の喚起(設問14)」、「研究者としての成長への寄与(設問19)」などの項目については、ここ数年のデータと比較して「強く思う」とする回答の割合が増加しており、学生の学習意欲や研究力の向上に貢献する質の高い内容を提供することができたと考えられる。

以上から、本学院の授業運営は堅調に行われていると評価できる。今後もこの好ましい傾向を維持しつつ、本学院の目的に沿った研究者ならびに高度専門職業人の養成に向け、さらなる教育の質の向上を図っていく所存である。

北海道大学大学院環境科学院
学院長・教務委員会委員長・教授 小西 克明
執行部室・特任助教 三浦 彩